

今日は高校野球の内でも最も面白いというベスト8の試合の日であった。朝起きて、TVに流れる映像をすこし眺めたあと、いつもの通りテニスに出かけた。午前中は昔務めていた会社のコートですこし運動した後、午後は常陸太田市にある山吹コートの例会に参加した。一通りの練習後、試合に入ったが大粒の雨が落ちてきた。しばらく待ったが止みそうもないので、自宅に帰って、また自室のTVのスイッチをいれて、これをバックグラウンドに読みかけの本をひらいた。ひたちなか市では雨は小降りであった。テニスの疲れもあって、すこしうとうとした後、TVで関東地方の各地に大雨や雷注意報を知らせる警告音声流れて、これで目が覚めた。関西は晴れているのでTVでは、相変わらず高校球児が機敏な動きをしている。ついに私の住んでいるひたちなか市にも雷注意報が発令された。予報通り、辺りは急に暗くなり、大粒の雨と同時に雷鳴が響いた。もっとも近くに雷が落ちたように感じた次の瞬間停電になった。幸い比較的短い時間の後、通電されその後嵐は徐々におさまった。

TVでは第4試合が始まるころだった。第4試合は強豪同士の対戦であった。どちらの投手も素晴らしく0対0でこう着状態になっている。夕食のため2階のTVから居間のそれに切り替え、食事をしながら観戦したが後半にやっと1点入れた優勝候補のチームが勝ちそうな雰囲気であった。食事を終えたが勝負の行方を見極めてから風呂に入ろうと思い食卓の椅子からソファに切り替えて観戦を続けた。9回の裏、負けている方のチームも頑張りをを見せて出塁していたが、既に2アウトになっていた。高校野球は何がおこるかわからない。少し前には満塁ホームランで逆転したチームがその裏満塁ホームランで同点にするという、いまだ聞いたこともないようなことが起こっている。そんなことを思いながら眺めていたら、最後のバッターが内野ゴロを打って一塁アウト。私は終わったといって風呂に入ろうと立ち上がりました。そしたら、妻が、「一塁セーフで満塁だ」と叫びました。そんなはずはない、確かに終わりだよと言いながら、TVを見るとスローモーションの映像が出ており、一塁手がベースを踏んでいませんでした。踏んでいないと思ったその一塁手は足を動かしましたが、ベースと反対方向に動かしていました。連続優勝も狙える優勝常連校でもこんなことが起こりうるのだと衝撃を受けました。

2アウト満塁になっても、まだ1点勝っているのだから、次の打者を打ち取れば何も問題ないところでした。ところが次の打者に外野を抜かれ一気に逆転サヨナラとなりました。ドラマでもこんなストーリーは考えられないようなことが起こったので、私は直ちにいろいろのことを考えました。

まず、一塁でエラーをした選手はもちろん責任を感じて心に深い傷を負っていると思います。これに対してチームメイトやマスコミも含めて、失敗は皆の責任であり君ひとりのせいではないといって慰めるでしょう。監督は私の指導が悪かったといって慰めるかもし

れません。確かに野球というものはチームプレーであり、失策はつきものです。今回の場合も、失策の後、ピッチャーが次の打者を抑えていれば勝っていたのです。この点でいえばピッチャーの責任もあります。いや、ピッチャーにサインを出したキャッチャーの責任もあります。外野手もあらかじめ予測して守備位置を変えていれば最少失点で抑え、その後逆転して勝利をつかめたかもしれません。このように考えると、全員の責任であることは理解できるでしょう。このチームの監督は、このような場合を想定して、心の訓練をさせていたかもしれません。それでもなおこの一塁手の落ち込みはいやせないでしょう。時の経過を待つしかないでしょう。

このチームは試合に負けましたが、試合に勝つことより多くの事を学んだ(学んでいく)に違いありません。これからの人生でプラスの方向に持って行ってほしいと切望しますし、監督もそのように訓示したに違いありません。

以上のことを考慮したうえで、なぜあの時ベースを踏まなかったのか考えてみることも大事だと思います。私が現役の会社員だった時に、何か失敗したとき、お互い傷をなめあうのは良くないと言ったものです。すなわち原因を正しくつかんで反省し、次に失敗しないようにしなさいということです。

今回の例では、一塁手は内野に平凡なゴロが飛んだ時、これで勝った! と思って、そう思った瞬間自分の足の位置の感覚が無くなったのかもしれません。満塁になった時投手はここで打たれたら、一塁手に申し訳ないと思ったのかもしれません。同様に他の選手全員、この失策のことに心を奪われて、次の正しい動作が心に無かったのかもしれません。それらのことが総合されてあの結果になったのかもしれません。

われわれ草テニスの試合でも、ゲームカウント 5・0 とリードした後最終的に 5・6 で負けるということが、たまに、あります。これはメンタルの問題で、これでもう勝ったと考え、試合が終わっていないのに、勝った時の事や、次の試合の事などを考えてしまうために、起こると言われています。テニスの世界では、なにも余計なことを考えず訓練してきたパフォーマンスを実行し続けることをゾーンに入ると言います。野球は考えるスポーツであると言われているので、これは当てはまらないかも知れませんが、メンタルが筋肉に影響することは必ずあると思います。今回のプレーを見て私は、自分のテニスの教訓を再認識できたことに感謝しております。

いづれにしても、今回の失敗が、彼らの人生においてプラスになって欲しいと切に願います。

2017 年 8 月 19 日 21 時 ひたちなか市 廣瀬博